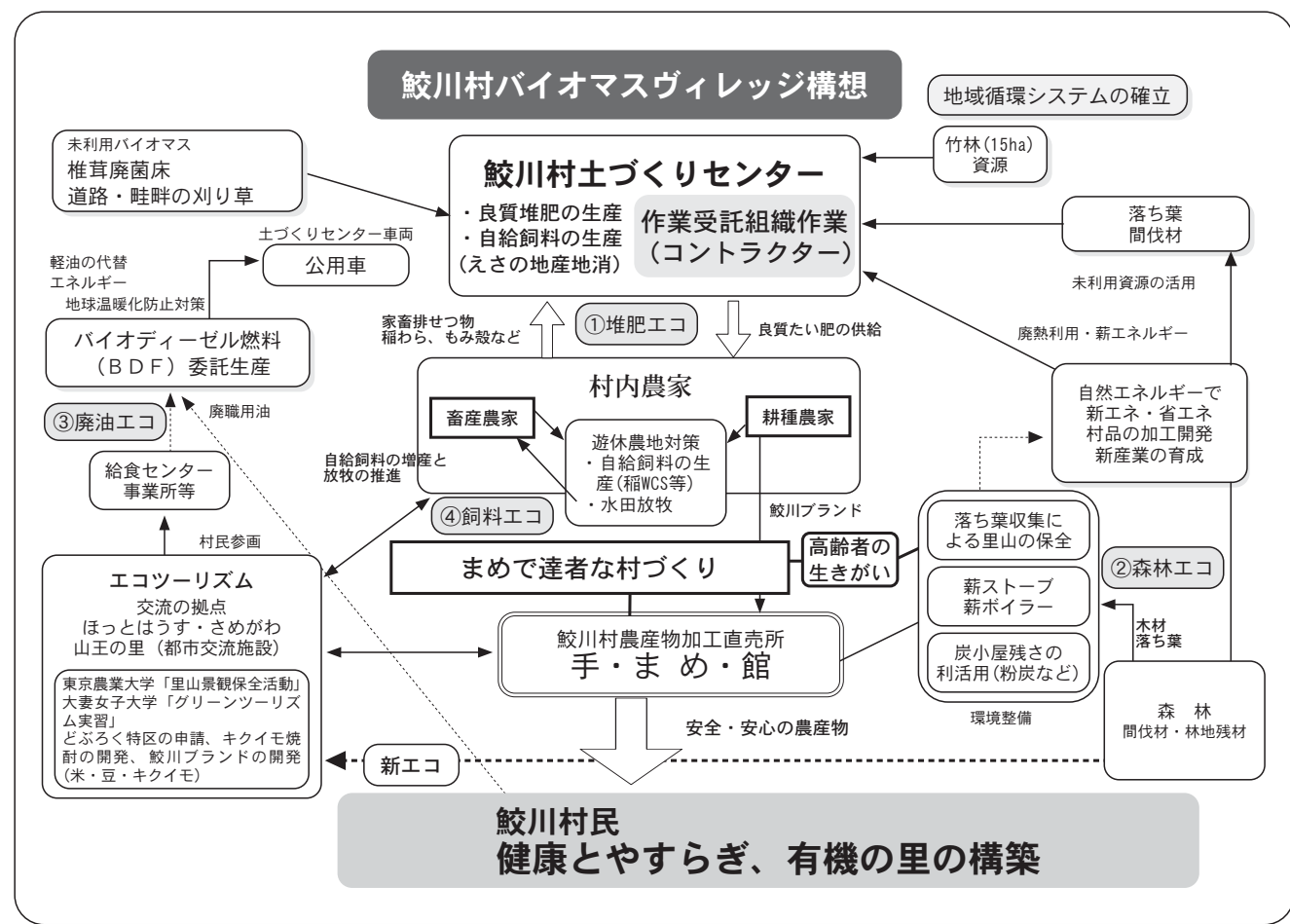


100年後も輝き続ける村づくりを目指して

将来の鮫川村、そして次世代を担う子どもたちへのプレゼント



地域資源を生かした「ゆうきの里づくり」研修会が八月五日、村公民館で行われ、村が策定を進めてきた「鮫川村バイオマスヴィレッジ構想」が発表されました。

村の基幹産業である農業を核として、村にある豊富な有機性資源を活用し、環境を保全しながら使い捨て社会から循環型社会への移行を促進し、源流の里・有機の里づくりを目指します。構想は、今月下旬に「鮫川村バイオマスヴィレッジ構想」として、農林水産省より全国へ向けて公表されます。

鮫川村バイオマスヴィレッジ 構想の理念

次世代の子どもたちに美しく魅力ある村として遺してあげるため、村の基幹産業である農業の六次産業化や地域の活性化を図り、地域に眠っている資源を有効に活用して、循環型社会を形成すること、そしてかけがえのない地球環境を守りながら村の発展に寄与することを目的として策定しています。

身近なバイオマスの例

- ▼畜舎や牧場から出るバイオマス：家畜のふんや尿など
- ▼山や田んぼで使われていないバイオマス：山に残ったままの木、刈草、稲わら、もみ殻など
- ▼畑からとれるバイオマス：牧草、キクイモ、とうもろこしなど
- ▼家庭から出るバイオマス：生ごみ、下水のどろなど

鮫川村のバイオマス 利活用方法(四本の柱)

- ①豊富な畜産堆肥を活かした土づくり
- ②間伐材・林地残材などの木質バイオマスの活用：薪供給市場(薪ステーション)の設置、薪ボイラー・薪ストーブの普及
- ③廃食用油の有効利用と燃料作物の栽培：村の廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料として利用
- ④資源作物によるアルコールの開発：キクイモなど資源作物の栽培、焼酎の開発、消毒エタノールの精製

構想で期待される効果

- ①自然環境の保全：地球温暖化防止、農業・畜産公害の防止、山林の保全と美化
- ②経済効果：農林業・商工業の振興、新たな産業の創出、若者の雇用創出、交流人口の拡大
- ③食育・健康・ゆとり：食育の推進、村民の健康増進、高齢者の生きがい増進、余暇を楽しむ

終わりに

これから生きていく子どもたちのために、みんなが笑顔で暮らせる村、そして百年後も輝き続ける村づくりを目指して、村民一人ひとりが環境を守り、地域の絆を次世代に引き継ぐことが大切です。



くり：有機の里づくりの核となる「鮫川村豊かな土づくりセンター」の整備、未利用資源の有効活用

ゆうきの里づくりブランドに12人16作物を認証

- 「ゆうきの里づくりブランド(特別栽培農産物)」認証式が研修会の席上で行われ、大楽村長から一人ひとりに認証書が手渡され、12人16作物が認証されました。認証者は次のとおりです。
- ▼菊地 常夫「トマト」
 - ▼鈴木 芳保「ミニトマト」
 - ▼宗田 トミ「たまねぎ・ばれいしょ」
 - ▼緑川千代子「きゃべつ」
 - ▼矢吹テル子「トマト」
 - ▼圓谷 由郎「トマト・きゃべつ」
 - ▼我妻 一男「きゅうり・なす」
 - ▼本郷 公市「ばれいしょ」
 - ▼小松 恵一「トマト・ミニトマト」
 - ▼大竹 なみ「トマト」
 - ▼圓谷 冷子「なす」
 - ▼鈴木リキ子「ばれいしょ」



研修会で行われた認証式